



Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ



- ◆例会日/週火曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町1-2-12 エイワンビル2階
- ◆会長 / 掛川 興太郎 ◆副会長 / 小池 平一郎
- ◆幹事 / 矢島 栄一 ◆クラブ広報・情報委員長 / 中河 邦忠

2016~2017 年度

国際ロータリーのテーマ

NO. 1327 平成28年7月19日

◆点鐘	掛川興太郎 会長
◆SAA	黒澤 明男 委員
◆ソング	それこそロータリー
◆ゲスト	甘利 享一様
◆ビジター	中野 信之君(小諸RC) 濱嶋加津男君(小諸RC)

【会長挨拶】 掛川 興太郎 会長

昨日、西日本は梅雨明け宣言がされました。これから、暑い夏本番、皆さん体調には気をつけて欲しいと思います。本日は、小諸ロータリークラブから中野会長、濱嶋幹事をお迎えして例会が出来ること、大変うれしく思います。ごゆっくりお過ごしください。親クラブである小諸ロータリーさんとは仲良く小諸地域のニーズを探りながら小諸地域の為に、協力しあいながら、役立つ奉仕活動をしていきたいと思っておりますので今後ともよろしくお願い致します。

本日の話は、佐久地方で使われている方言についてのお話をしたいと思います。私も経験がありますが、皆さんもきっと経験があると思います、何気なく使っている言葉に対して怪訝な表情をされたことがあると思います。思いつく方言の一例として

1. あさっぱら-----あさっぱらからせっこいい人だ。
2. あらかた-----あらかた部屋がかたずいた。
3. ありっこねえ-そんなところにマツタケはありっこねえ
4. いかざあ、いかず---みんな一緒にいかず
5. うえせい-----そのみかん、机のうえせいおいてけや
6. おっかねえ---おっかねえ話を聞いてから夜は外に出れない
7. おやげねえ---おやげなくて涙が出る

私たちは、何気なく使っている言葉がほかの地域で、何気なく使うと、「なに？」と聞き返された経験があると思います。ある意味方言は、文化でもあるように思います。

歴史的に、例え国土が失われても、言葉を失わない民族は、長い年月を生き伸びるが、言葉を失った民族は滅亡すると言われます。同じように地域固有の言葉、方言を失うことは、その言葉の表わす、生活様式、古くからのしきたり、催しなど、それにかかわる文化

や思想を失うことになり、社会の平板化、規格化を推し進めることになるように思う。

人は方言で話しをするとき、和やかになるように思う。美しい言葉は出来るだけ多くを伝えていきたいと思う。

【幹事報告】 小林 秋生 副幹事

1. 原拓男ガバナーより

① 地区大会案内

日時 10月15日(土)・16日(日)

場所 軽井沢プリンスホテル ウェスト

登録料 会員 7,000円 家族 7,000円

記念講演「日本の未来を明るくするヒント」

森永 卓郎氏

② 第28回RYLA開催案内

日時 9月24日(土)・25日(日)

場所 松本東急REIホテル

2. 例会変更

小諸RC	8月3日(水)	定刻受付あり
	8月17日(水)	定刻受付なし
上田六文銭RC	8月9日(火)	定刻受付あり
	8月16日(水)	定刻受付なし

3. 週報

南佐久RC

【本日の配布物】

週報 1326号、望月宗敬ガバナー月信 13号、2015~16年度会計報告

◆出席報告 前田 博志 委員長

会員数 21名	出席義務者	19名	免除者 2名
本日	出席 事前MU	17名 1名	89.47%
前々回(7/5)	MU	0名	78.85%

◆ラッキー賞

NO. 2 小池平一郎君

◆委員会報告

2015～16 年度クラブ運営委員会 小林 秋生 委員長

・2015～16 年度会計報告

前田 博志 直前幹事

・神津恭通・若林正忠氏の送別会について

2015～16 年度 渡辺 文夫 監事

・2015～16 年度 監査報告

◆ニコ BOX 前田 博志 委員

中野 信之君	小諸浅間 RC の皆様、本年度もよろしくお願ひ致します。うな重美味しくいただきました。
濱嶋加津男君	アットホームの小諸浅間 RC との交流よろしくお願ひ致します。
甘利 享一君	卓話、宜しくお願ひ致します。
前田 博志君	甘利先生、ありがとう。
掛川興太郎君	中野会長・濱嶋幹事さん、よくおいで下さいました。
美齊津 明君	中野会長・濱嶋幹事さん、甘利さん、今日は有難うございます。これからも宜しくお願ひします。

小林 秋生君	小諸 RC の中野会長・濱嶋幹事さんがお見えになりました。どうぞ一年間よろしくお願ひ致します。
小池平一郎君	中野会長さんにラッキー賞を引いて頂きありがとうございます。濱嶋幹事さん、ようこそ。甘利さんビフォーアフターの話楽しみにしています。
青松 英和君	所用の為、早退します。
渡辺 頼雄君	職業奉仕の為、早退させて頂きます。

◆【本日のプログラム】「大改造劇的ビフォーアフター 木曾福島 田中家の話」 甘利 享一様



小諸 RC の甘利です。いつも浅間ロータリークラブの皆様にはたいへんお世話になっていきます。

先月の東信第一グループの会長幹事の引き継ぎの席で、昨年度幹事であった前田さんより話があり、次期はプログラム委員長なので6月12日にテレビ朝日で放送された大改造劇的ビフォーアフターの話をしてほしいとのことであり、小諸浅間RCさんの貴重な例会時間

を私ごときが潰していいかとの思いもありましたが、前田さんより再三の以来もあり、お引き受けすることとなりました。

いつも行き当たりばつたりの性格なもので今日朝から本日の内容を組み立ててきましたが、どうもテレビ映像はパソコン上に落とし込むことは大変であるとわかり、本日に合ったもののみで話を進めたいと思います。

ちなみに実際のテレビを見られた方は数人だと思いますがテレビを見られた方は何人くらいいらっしゃるでしょうか？この TV 全体の流れから説明をしますと、昨年11月頃だと思います。テレビ朝日劇的ビフォーアフターのプロデューサーと名乗る方から事務所にいきなり一通の電話が入りました。

そしていくつかの条件、ビフォーアフター株式会社からの匠としての審査を受け、俳優の田中要次さんの母屋の蔵を改修する運びとなりました。12月24日。第一日目の撮影は小雪のちらつく大変寒い日が皮切りとなりました。この時は冬支度でセーターにジャンパー姿でしたが、最終的には撮り直しとなり5月の気温 30℃の中で同じ支度で汗を流しながらの撮影となりました。

当初の工程ですと、1月に設計完了、2～4月に工事を行い4月末には放送予定でしたがその敷地の地盤が傾斜地で粘土質なため、現場には車が入れず無理との結論に達し、実際は4月に入ってから着工となりました。その間1月～3月までは設計期間となり、最初にプラン3案を作成し最終的にはテレビ放送されたものが最終案と決定しました。

実際公表された予算400万は本当のお値段であります。通常ならば1000万は軽く超えます。なぜこの値段で実現可能になったかの説明をしたいと思います……

また撮影日数は述べ16日間に及びましたが映像として流れたのは約5%程度です……

また、私は田中要次さんが現地に来るときは必ず同行しなければならず泊まる旅館、朝食等2人で1セットという感じでした。2人だけで風呂に入ったこともあり、フロ友と言ってもおかしくはないかと思えます。

話を切り替えまして建築的な観点でなぜ最終的にこの型でまとめたかという話をしていきたいかと思えます。今回の蔵は棟札が残されており、明治11年に完成と記されておりました。

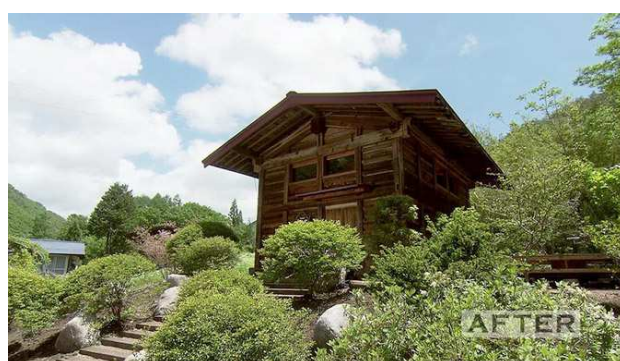
工法はこの地域のみに残る貫板倉工法という伝統工法です。木曾ですからこの地域の檜、さわら等、地域産業を高めるための一つとしてあみだされた作りです。初めてこの地域を訪れたとき、今回の蔵と同じ建物がいくつも点在していました。この地域の貴重な田園風景が残されていてこれを後世に引き継がなければいけないと直感しました。外観は建築当時のままに戻し、後から増築されたものはすべて撤去しました。

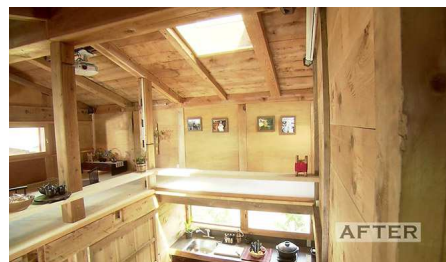
開口部も最少限にしようとしたことから外壁が倒れる出入口がイメージできました。当初のプランですと屋外デッキは裏山の湧水を利用して池を作り、屋外デッキは池の中に浮かんだ形状をつくり外壁が倒れてブリッジとなり蔵とデッキを繋ぐ計画でしたが予算的に不可能との判断からあきらめることとなりました。

建物の持っているコンセプトは建築と人です。人が生活するために居心地がよく普段の日常生活では味わうことのできない空間づくりをイメージしています。

今回はそういう点でプログラムの中に、蔵からアトリエ的なコテージを木曾福島を訪れる人々に木曾福島の自然、いな　か暮らし体験施設として生かされたことは意義があったことと思っています。

まとまらない話となりましたが、時間が来たためこのへんで終了としたいと思います。ご静聴ありがとうございました。





次週のプログラム： 7月26日 「会員増強について」 会員増強委員会
次々週のプログラム： 8月 2日「納涼夜間例会」 クラブ運営委員会